

村上大祭



村上市郷土資料館

1 朝の風景

○7月7日午前零時→先太鼓^{ごぜん}が^{れいじ}出発し、各町内を巡回^{さきだいこ}

○午前2時→荒馬^{あらうま}が^{しゅっぱつ}出発、久保多町屋台^{くぼたまち}がそれに続く^{やたい}

○小町坂→久保多町屋台が坂を3回上り下りする

・ 壮観な風景は村上大祭の見どころの一つ。

○午前8時→祭礼行列が羽黒神社前を出発する



2 村上大祭の始まり

○村上大祭は羽黒神社のお祭

○羽黒神社：本庄繁長が出羽（鶴岡市）羽黒神社の神さまを分霊し、庄内町に神社を建ててお祀りした→その後お城山の麓に建立

○城主 堀直奇「お城から羽黒神社を見下ろすのは恐ろしい」

- ・寛永10年（1633）6月7日→現在の場所に移す。
- ・大町の人が遷宮をお祝いして、荷車に太鼓をのせ、それを打ち鳴らしながら町中を練り歩いた。



村上大祭の始まり！

3 村上大祭はなぜ7月7日？

○江戸時代➡6月7日 現在➡7月7日

○太陰暦から太陽暦へ

- ・ 明治5年12月2日まで太陰暦➡翌日から太陽暦を使用。
- ・ 明治5年12月3日が明治6年1月1日。
➡暦が約1カ月早くなる！

○太陰暦の6月は、太陽暦の7月ですので
7月7日になった！

4 村上大祭は町人町の祭り

○江戸時代、町人町の数
は19 → 屋台は19台

①久保多町 ②大町 ③寺町 ④大工町 ⑤小町 ⑥塩町 ⑦上町
⑧細工町 ⑨安良町 ⑩小国町 ⑪鍛冶町 ⑫肴町 ⑬長井町
⑭羽黒町 ⑮庄内町 ⑯片町 ⑰上片町 ⑱加賀町 ⑲泉町

- ・ 昔の武家町にはない。（二之町、三之町、飯野など）
- ・ 明治以降にできた町にはない。（大欠、山居町、南町など）

※ 瀬波大祭 → 5 台 岩船大祭 → 9 台

5 屋台の変遷

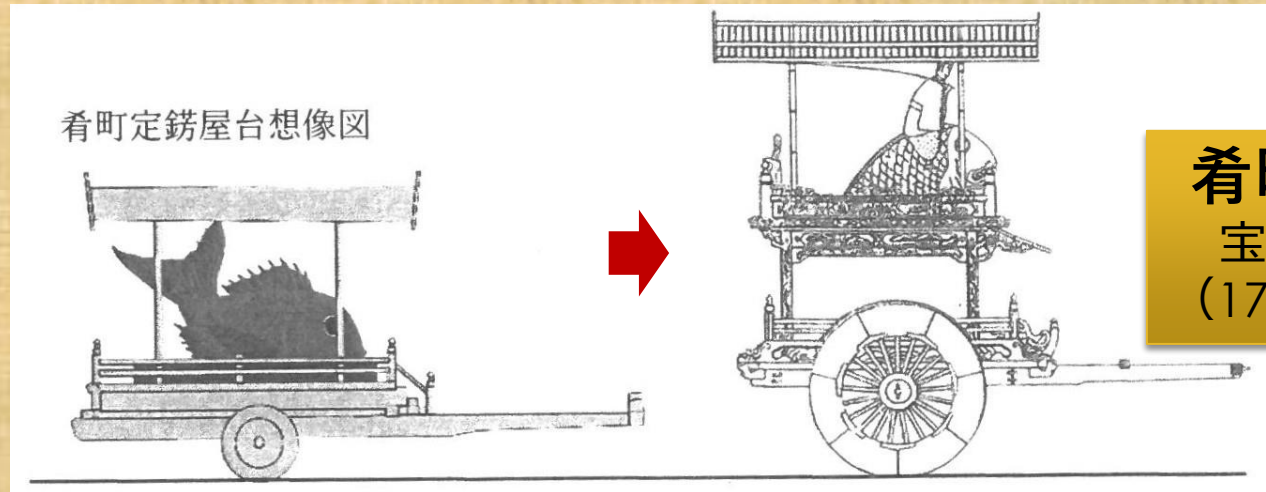
○始めの頃の屋台は簡単なものだった

- ・「松平直矩（なおのり）日記」 寛文7年（1667）
「～鯛車に引き、猩々（しょうじょう）車に引き、鐘引き～」

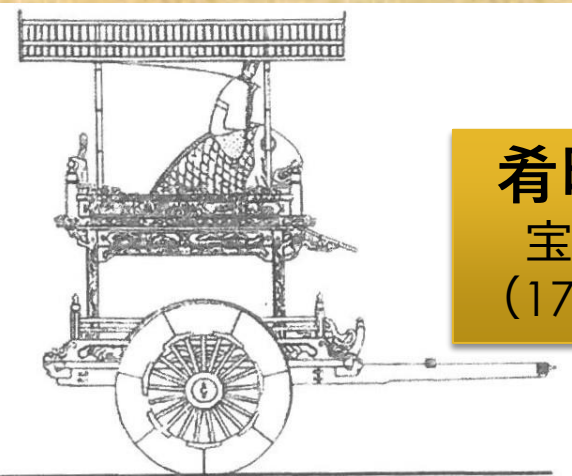
○一層定鋸（じょうかざり）屋台→二層屋台



鯛車



一層定鋸屋台



二層屋台

肴町屋台
宝暦10年
(1760) 建造

6 古い屋台と新しい屋台

○古い屋台

- ・肴町➡宝暦10年（1760）
- ・塩町➡安永元年（1772）
- ・小国町➡安永3年（1774）

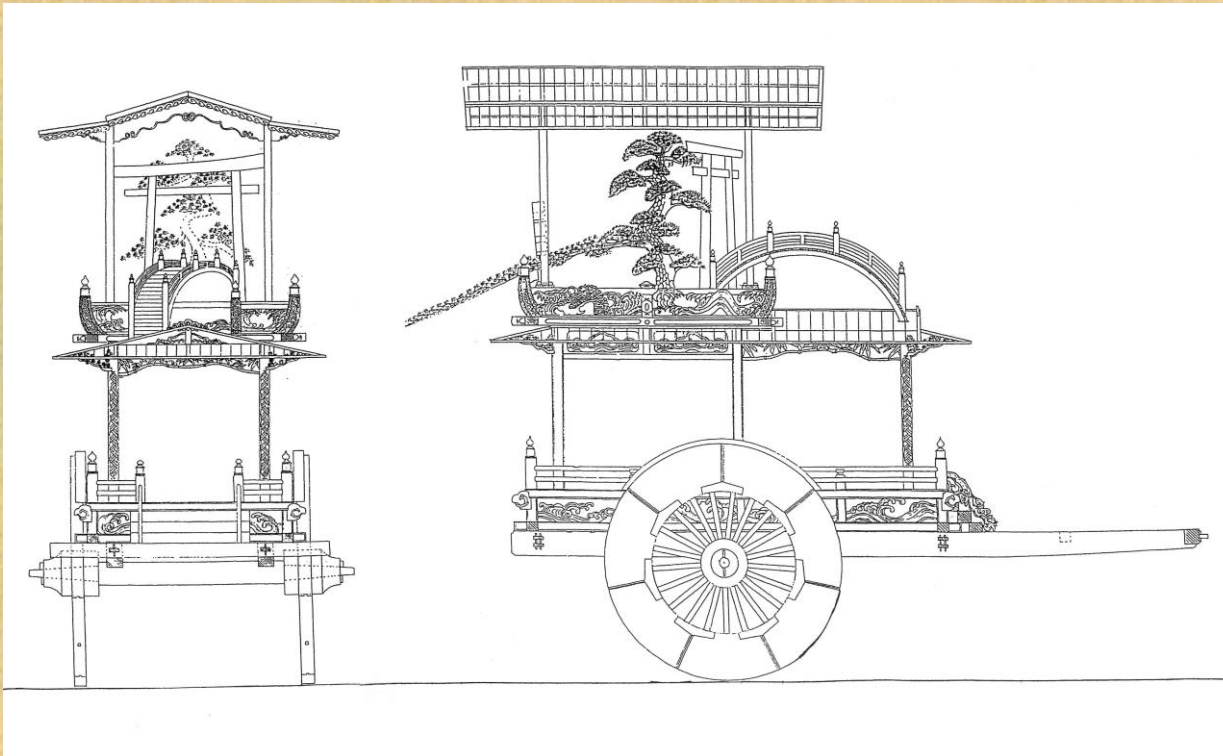
○新しい屋台

- ・片町➡平成20年（2008）
 - ・庄内町➡平成11年（1999）
 - ・羽黒町➡平成10年（1998）
- ※作り替え

7 屋台の種類

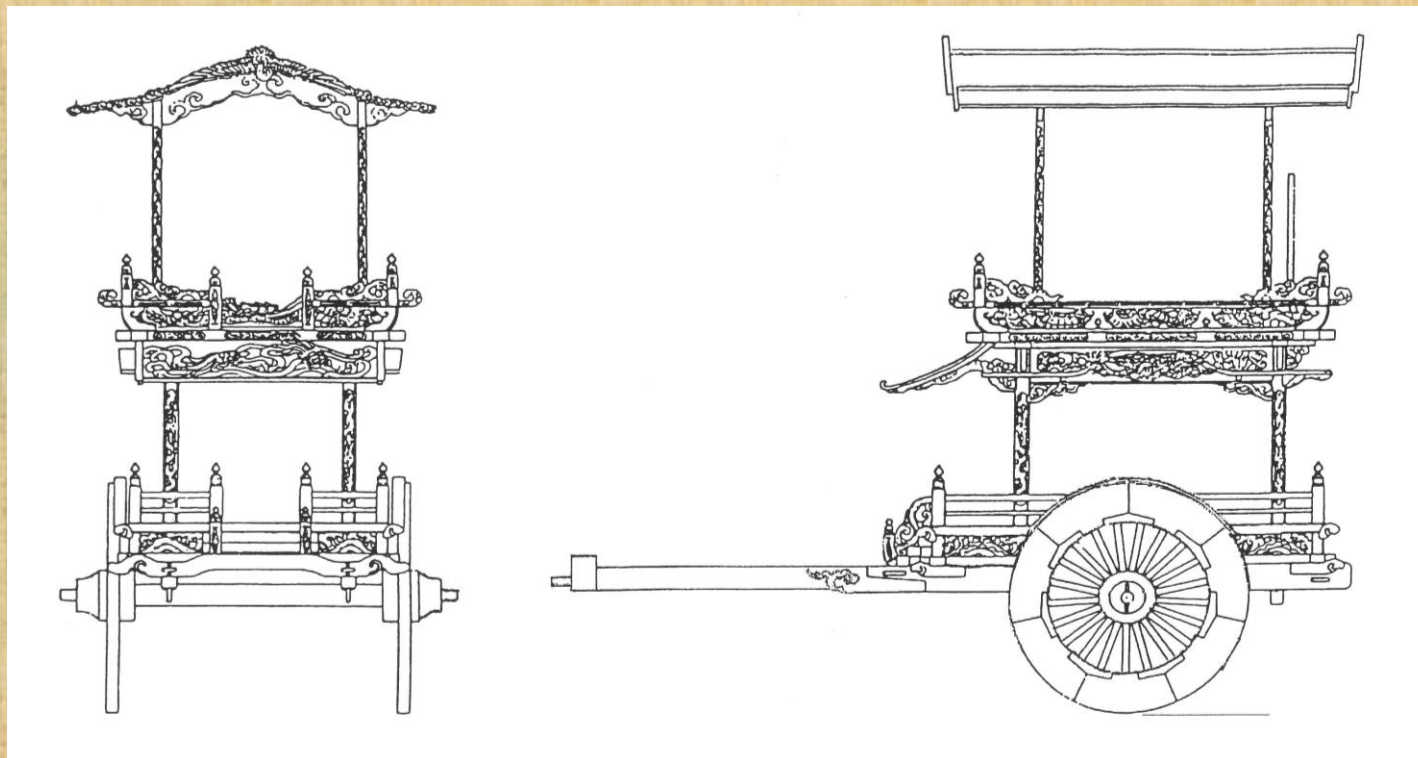
(1) はやし屋台

- ・一階は、はやし台と楽屋の二間造り。
- ・太鼓、鉦、三味線。6町内それぞれおはやしの曲がある。
- ・久保多町、細工町、安良町、鍛冶町、片町、上片町（6町内）



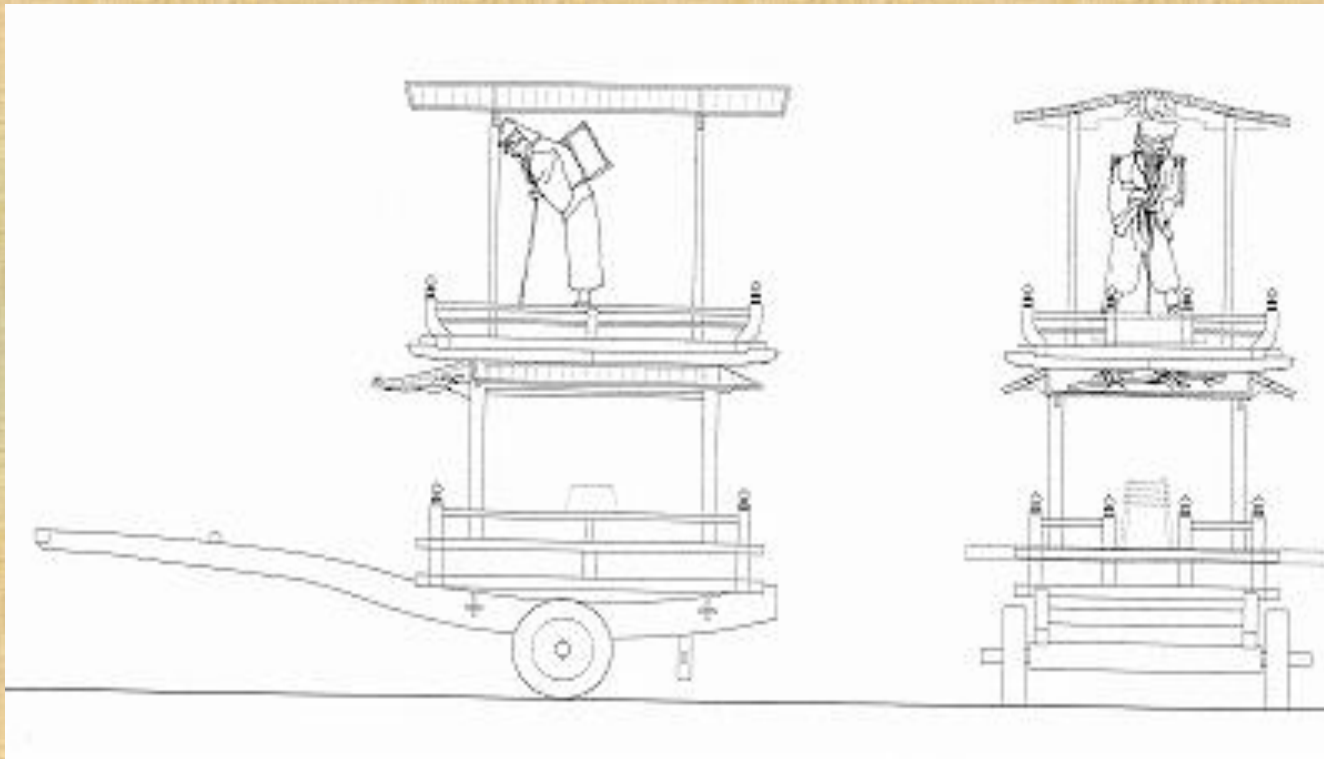
(2) シャギリ屋台

- ・ 一階は、はやし台の一間造り。彫刻と漆塗り。
- ・ 太鼓と鉦。基本的に共通した曲を演奏する。
- ・ 大町、寺町、大工町、小町、塩町、上町、小国町、肴町、長井町、羽黒町、庄内町（11町内）



(3) にわか屋台

- ・ 簡素な造りで、車輪も小径。
- ・ 大太鼓と小太鼓。打ち手は一人。子どもの乗り子はいない。
- ・ 加賀町と泉町（2町内）



8 屋台の大きさと車輪

○屋台の高さ⇒約4.8～5.3m

- ・一階建屋と二階建屋の中間の高さ。

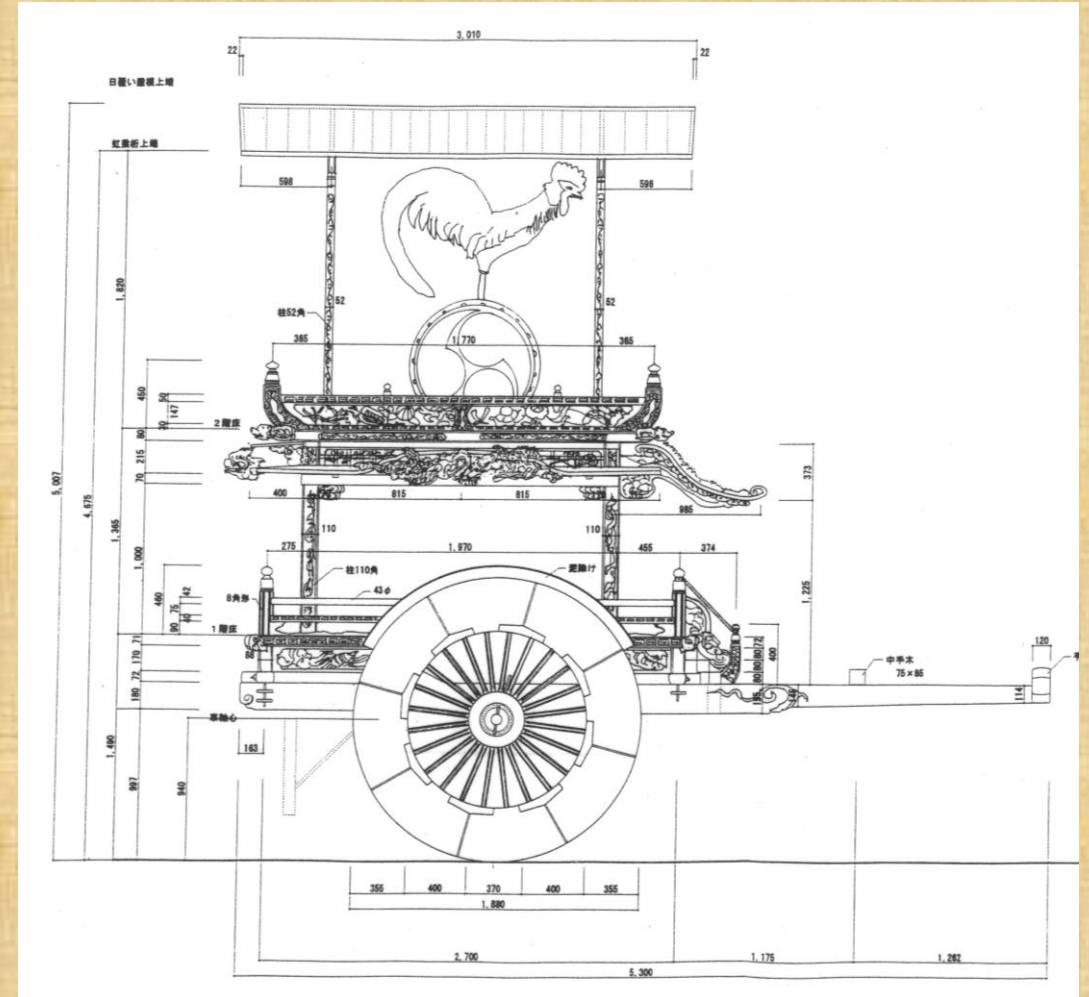
○車輪⇒2輪。直径約1.8m

- ・全国的には四輪屋台が多い。
 - ・二輪車は狭い道路を曲がりやすい。
- ※江戸時代は道幅が狭い。

城下町特有の直角の曲がり角も多い。



村上は二輪屋台が適している！



大町屋台の側面図

9 屋台の順番

○江戸時代の屋台の順番

- ・村上藩は毎年祭り行列の順番を提出させていた。
⇒屋台の順番が決まっていたわけではない。

○現在の屋台の順番

①久保多町 ②大町 ③寺町 ④大工町 ⑤小町 ⑥塩町 ⑦上町
⑧細工町 ⑨安良町 ⑩小国町 ⑪鍛冶町 ⑫肴町 ⑬長井町
⑭羽黒町 ⑮庄内町 ⑯片町 ⑰上片町 ⑱加賀町 ⑲泉町

- ・この順番になったのは明治以降。
- ・どのようにして決められたかは、資料がなく分からない。

10 屋台と乗せ物

○屋台⇒元々神様を乗せる乗り物（山車）のこと

- ・ 2 階の「乗せ物」（人形）は、神様がやどるところ。

○神様に近いものを乗せ物にしている

- ・ 神様（大黒様、恵比寿様など）
- ・ 神社や霊地（住吉大社の景など）
- ・ 中国の故事（諫鼓（かんこ）に鶏など）
- ・ 昔話や説話（天狗の面など）



○祭りの目的

神様を乗せて町を回る⇒安全、健康、豊作等を祈る。

11 祭りの行列と荒馬

○行列の巡行

- ・ 先太鼓、傘鉾、荒馬、稚児、3基の神輿、神馬、19台屋台

○荒馬

- ・ 庄内町の小学生が武将の服装で14騎の荒馬に乗り（担ぎ）歩く。
- ・ 本庄繁長が庄内地方での戦いに勝ち、帰ってきたときの姿を表わしたもの。
- ・ 羽黒山の分霊を持ち帰り、庄内町に祀った。
➡それを守る馬として荒馬があった。



12 法被（はっぴ）

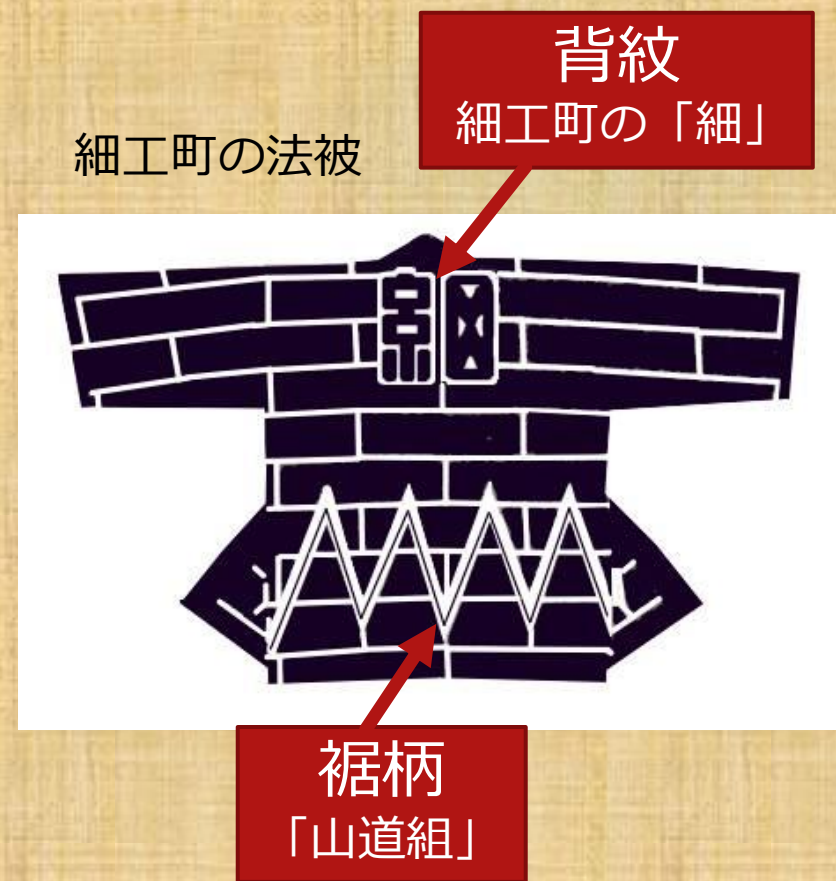
○明治以降、各町内の法被を着るようになる

- ・ 背中の図柄（背紋）は町内の印。
- ・ 法被は屋台引き手の制服。
- ・ 仲間意識や団結力が高まる。

○法被は江戸時代の消防組から

- ・ 鱗組、山道組、輪違組、筋違組。

→法被の裾柄の名残り。



13 屋台と職人

○屋台をつくるにはたくさんの職人が必要

- ア 屋台本体製作⇒大工、彫刻師、材木屋、銘木屋 等
- イ 塗り、金泊貼り⇒塗師、箔師 等
- ウ 金具づくり⇒鋳金（ほうきん）師 等
- エ 乗せ物の人形づくり⇒人形師、機織（はたおり）師、
仕立師 等

○昔、村上にはたくさんの職人がいた

⇒伝統的な技術をもった職人が少なくなっている。



ご清聴、ありがとうございました